

お知らせ
コーナー

房総発掘
出土遺物巡回展

ものがたり

平成19年度出土遺物巡回展

「房総発掘ものがたり」

平成19年度の巡回展が県立房総のむらを皮切りにスタートしました。この展覧会は、県内各地の発掘調査から注目すべき9遺跡を取り上げ、その成果をいち早くご覧いただくために開催するものです。

会期中には講演会・体験教室・解説会などが予定されています。詳しくは各館にお問い合わせください。

①平成19年7月14日(土)～平成19年9月2日(日)

千葉県立房総のむら

〒270-1506 印旛郡栄町竜角寺1028

TEL 0476-95-3333

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/MURA>

④平成19年11月8日(木)～平成19年12月2日(日)

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館

〒289-1619 山武郡芝山町芝山438-1

TEL 0479-77-1828

URL <http://www.haniwakan.com>

②平成19年9月6日(木)～平成19年9月30日(日)

千葉県立関宿城博物館

〒270-0201 野田市関宿三軒家143-4

TEL 04-7196-1400

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO>

⑤平成19年12月8日(土)～平成20年1月14日(月)

千葉県立安房博物館

〒294-0036 館山市館山1564-1

TEL 0470-22-8608

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/AWA>

③平成19年10月4日(木)～平成19年11月4日(日)

八千代市立郷土博物館

〒276-0028 八千代市村上1170-2

TEL 047-484-9011

URL <http://www.city.yachiyo.chiba.jp>

⑥平成20年1月19日(土)～平成20年3月2日(日)

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

TEL 043-265-3111

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL>

こんな資料が展示されます!!

東北地方の石でつくられた石器 船橋市源七山遺跡出土

船橋市の北東部にある源七山遺跡では、6段階の時期(文化層)にわたって、総数1,469点の旧石器時代の石器が見つかりました。写真は約23,000年前の第3文化層で見つかったナイフ形石器で、東北地方で得られる質の良い硬質頁岩という石でつくられています。黒曜石が使われているほかの文化層でも、信州産が多かったり栃木県の高原山産が多かったりします。時期によって石器づくりに使われる石が異なっている点が、源七山遺跡の大きな特徴です。



埋文
レポート

いろんなイベントに出張します!!

この春、“大多喜レンゲまつり”(4月28・29日)や、“佐倉・時代まつり”(4月30日)に出張。来場者はそと土器に触れたり、古代のアクセサリーを作ったりして楽しんでいました。

いつでも県内どこへでも出張します。お気軽にお問い合わせください。



「佐倉・時代まつり」



「大多喜レンゲまつり」

古代モノづくり工房を開催

モノづくりをとおして、古代の技術を体験してみませんか。



●内 容 まがたま しが つの
勾玉づくり、鹿の角ペンダントづくり
(各体験とも1人1回300円)

●日 時 8月19日(日)～22日(水) / 10:00～15:30

●会 場 南部調査事務所 古代体験ルーム
(大多喜町森宮8-3 TEL 0470-82-2425)

●申込み 電話で普及課 (TEL 043-424-4849)へ
直接お申し込みください。

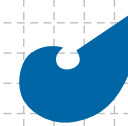
CONTENTS

◆発掘調査速報「松崎山ノ台遺跡」

◆続報「久下横穴群」

◆埋文・アラカルト平成19年度出土遺物巡回展

VOL. 42



ISSN 0919-0848
Hoso no bunkazai

平成19年7月17日 財団法人 千葉県教育振興財団

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850

<http://www.echiba.org>





松崎山ノ台遺跡 (成田市松崎)

千葉ニュータウンと成田空港を結ぶ成田新高速鉄道と北千葉道路(国道464号線)の建設に伴う発掘調査で、おもに古墳時代後期(6世紀～7世紀)の集落と古墳が発見されました。

集落の西端には長方形の古墳が造られています。埋葬施設は茨城県筑波地域産の平石を組んだ箱式石棺ですが、盗掘を受けて副葬品も石材もほとんど抜かれています。古墳は7世紀代のものと考えられ、葬られた人と集落との関係を考える上で大変興味深い遺跡です。

5月19日(土)には現地説明会を開催しました。表紙の写真は、中央が埋まりきることなく窪地として残った竪穴住居跡の説明風景です。別の住居跡の貯蔵穴からは、土器がまとまって出土しました(表紙右下の写真)。竪穴住居跡のなかには、住居の一边が8mを超える大きなものもあります。



上空から見た遺跡(左下が古墳)



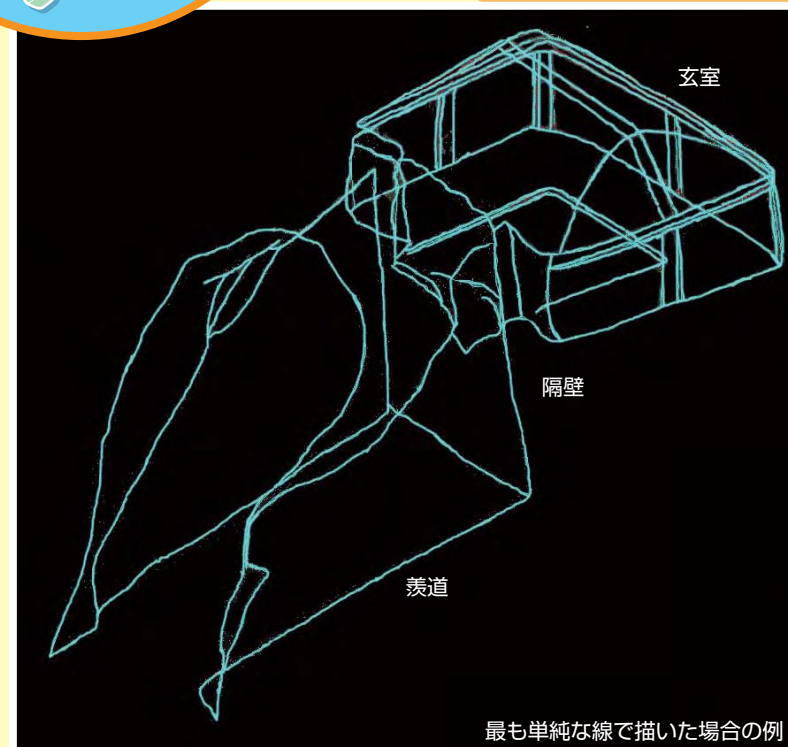
一边が8mを超える大型の竪穴住居跡



前号(41号)で紹介した久下横穴群の調査がこのほど終了しました。18基の横穴墓が調査され、須恵器や鉄鏃、耳環、ガラス小玉などの副葬品が出土しました。写真は13基もの横穴墓が密集していた地点です。実に壮観な感じがします。

このように横穴墓は、群れをなして造られることが多く、千葉県では7～8世紀を中心に数世代にわたって使われました。

久下横穴群 (茂原市国府関)



最も単純な線で描いた場合の例

今回の調査ではレーザー光線を利用した詳細な測量が行われ、左のような3次元の図化が可能になりました。これによって今まで十分に伝えられなかった玄室内の様子が詳しく再現されるようになりました。パソコンの画面で様々な角度から横穴墓を観察でき、その場に行かなくても、バーチャルな体験ができるようになりそうです。

このように発掘調査の方法も改良され、多くの情報を残せるようになりました。

